

ハンセン病問題から考える「個人の尊厳」

～ 偏見・差別の連鎖を克服するために～

ハンセン病患者に対する国の隔離政策の過ちを断罪した熊本地裁判決から10年が経ちました。しかし、社会内に根深く残る偏見差別の問題をはじめ、ハンセン病問題については今なお多くの課題が残されています。

国の強制隔離政策のもと、兵庫県からも多くの方が療養所へ強制収容され、家族や故郷との関係を断絶され、人生を奪われました。いまでも療養所で暮らす兵庫県出身者も数多くおられます。また療養所を退所し、県内で差別偏見に脅えながら身を潜めるように暮らす退所者も何十人もおられます。

ところで、昨秋大阪・神戸で上演され、当会も後援したミュージカル「ドクターサーブ」について、ハンセン病回復者等から「ハンセン病患者の描き方が差別偏見を助長し、回復者の尊厳を傷つける」として申し入れがありました。

当会では、このような問題もふまえ、あらためてハンセン病問題につき皆様と共に学び、考えるための研修会を企画しました。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

と き 2012年5月19日(土)午後1時～5時

ところ 兵庫県弁護士会館4階講堂

(神戸市中央区橋通1-4-3)

入 場 無 料
予 約 不 要

進行次第

1. ハンセン病問題概説

徳田靖之 弁護士(大分県弁護士会所属、ハンセン病国賠訴訟西日本弁護士代表)

2. 映画「新・あつい壁」上映

ハンセン病元患者の男性が殺人罪に問われ、無実を訴えながら死刑となった事件を題材とした作品。なお、同事件については現在再審請求にむけた活動が行われています。

3. パネルディスカッション

パネリスト 徳田靖之 弁護士

日野千栄子 兵庫県出身、ハンセン病療養所長島愛生園入所者

宮良正吉 ハンセン病療養所退所者、関西退所者いちょうの会会長

藤原精吾 弁護士(兵庫県弁護士会所属)

コーディネーター 大槻倫子 弁護士(兵庫県弁護士会所属)

当日は手話通訳・要約筆記を実施します。

兵庫県弁護士会館

〒650 - 0016

神戸市中央区橋通1 - 4 - 3



来会者用の駐車場はございません。電車・バス等公共交通機関をご利用下さい。

【本チラシに関するお問い合わせ先】

兵庫県弁護士会人権擁護委員会担当事務局

電話：078-341-7061（代）



兵庫県弁護士会イメージキャラクター
「ヒマリオン」